

難削材の加工体制強化



竹内型材 平面研削盤など増強

【相模原】竹内型材研究所（神奈川県伊勢原市、内山真司社長）は、難削材加工技術を生かした消費材製造を強化する。従来の金型部品製造をベース事業、消費材製造をフォーカス事業として新分野を開拓する。このため、岡本工作機械製作所製の超精密平面研削盤4台のほかショットブラスト装置や測定器など計13機種19台を導入した。総投資額は約7000万円。

竹内型材研究所は電子部品用の金型部品メーカーで、電子部品の微細化・超精密化に対応した極薄研削技術を強みとする。近年、チップタン、コバルト、ニッケルなどを含み機能性を持たせた部材が半導体、医療、航空宇宙分野で応用されている点に着目。難削材を加工した消費材製造の強化

本社近隣に開設したラボはシヨールームを兼ね、難削材加工に対するユーザーからの相談を受けける

に乗り出した。今回の設備導入により、アルミニウム、ステンレス、コバル合金

金などの難削材に対する精密な平面研削、梨地模様・鏡面仕上げが可能な表面加工、硬度測定や傾斜試験まで一貫して対応する体制を整えた。消費材分野では金属製のeスポーツ用マウスパッドなどを開発しているほか、本社近隣にシヨールームを兼ねたラボを2021年に開設した。ホームペーシ（HP）もリニューアルし、同社の難削材加工技術による加工工程も公開している。同社の永広知史マーケティングチームリーダーは「今後も市場のニーズに応え、より顧客満足度を高めたい」としている。